

# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科  
小野 綾

作成日 2023年2月1日

## 1. 教育の責務

2012年度に弘前学院大学に採用され、看護学部の老年看護学領域の教員として勤務している。老年看護学に関する科目や基礎演習、卒業研究などの科目を担当している。				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎演習	1年	演習	前期	小グループ制の初年次教育
健康づくり実習Ⅰ	1年	実習	前期	地域住民の生活を知るための実習
健康づくり実習Ⅱ	3年	実習	後期	地域住民への健康教育を実践で学ぶ実習
老年看護方法論	2年	講義	後期	高齢者のアセスメント方法
老年看護援助論	3年	演習	前期	高齢者の援助方法
老年看護学実習	3年	実習	後期	高齢者の理解と看護を学ぶ実習
	4年	実習	前期	
看護統合実習	4年	実習	前期	課題探求型の実践的な看護学実習
卒業研究	4年	演習	通年	研究と論文作成のプロセスを学ぶ

## 2. 教育の理念

学生が興味を持ち楽しく自律的に学ぶ事を期待し、以下の2点を理念に教育を行っている。

1. 人体に興味を持ってもらうことを重視する。  
まずは人体を学ぶことの楽しさを学生に知ってほしいと強く考えている。人体を学ぶことにおいて、難しさよりもその緻密性、合理性などから垣間見れるヒトの体の素晴らしさを感じてほしい。  
そして、看護を行う上でヒトの体をイメージする事や理解することはとても重要である。人体をより理解することで、自分で考えながらアセスメントや援助を行う能力が高まる。根拠をもって適切に、安全に看護を行うことができるように、授業の中では人体の構造・機能と関連付けを行うようにしている。
2. 看護に興味を持ってもらうことを重視する。  
学生が看護に対する興味を失ってしまうことは教育の失敗だと考えている。教員の関わり方や教え方ひとつでそれを決定づけてしまう可能性がある。そのため、授業やそれ以外の学生との関わりにおいて、学生が看護に対する興味を失わないよう、学習がつまらないと感じてしまわないように気を付けている。  
看護を学び始めた時のワクワク感をどの学生にも体験してほしい。それを期待して、自分の学生時代の体験談なども授業中に話すようにしている。「看護って面白い」と少しでも学生が感じてもらえるような授業展開ができるよう、今後も自己研鑽していく。

## 3. 教育の方法

1. 講義形式の授業の場合  
教科書ベースで予習を行ってもらい、授業は主にスライド資料や配布資料を用い、解説をしながら進めていく。授業が一方的にならないように、適宜双方向の場面を設けるようにしている。また、学生にグループやペアを作ってもらい、学生がディスカッションしながら学ぶ機会を得られるようにしている。工夫している点として、学生がそれまで学修した分野、とくに人体の構造・機能や基礎看護学の知識と結びつけられるように導いている。
2. 演習形式の授業の場合  
1回の授業につきテーマを設けている。根拠に基づいた看護技術やコミュニケーションスキルを学生が体験を通して学ぶことができるようにしている。技術を学ぶだけではなく、学生が看護師視点、患者視点の両方で思考できるように工夫をしている。
3. 実習形式の授業の場合  
学生にはあらかじめ与える事前学習を完了した状態で実習に臨んでもらう。臨地実習場へ赴く前に、学内実習を通して十分に実習内容のイメージを持てるように学生の準備を整える機会を設けている。臨地実習においては、現場の指導者やスタッフの方々と連携を図りながら、学生が受け持ち利用者の安全を考えながら看護を展開していけるように指導を行う。看護対象者の病気や障害ばかりに目を向けるのではなく、まずは一人の人間として接することが重要であることを強調し臨地へ送り出すようにしている。人間対人間のかかわりの中で看護につなげていく事の意義を理解できるように導いている。学生には1日単位で学びの振り返りを行ってもらい、さらに指導の下での看護過程展開により思考力を伸ばせるようにしている。臨地実習後には、学内実習においてグループダイナミクスにより学びの言語化、共有を図りつつ学びをまとめ上げるプロセスを設けている。

#### 4. 教育の成果

##### 1. リアクションペーパーより

学生からは「説明がわかりやすい」、「話し方が聞き取りやすい」、「授業が面白い」などの感想を得られている。一方で、「スライド進行が速いときがある」との意見も時々ある。また、「解剖生理の知識が足りない事に気付いたためもっと勉強しないといけない」などの気付きにもつなげる事が出来ており、こちらの狙いが達成できたと実感できる反応も得られている。

##### 2. 実習まとめ会やレポート等の提出物より

老年看護学実習において、学生は知識や技術面だけではなく対象の一続きの人生を考えながら看護を考えることができるようになってきている。実習先の指導者やスタッフからも学生の態度面や考える力、コミュニケーション能力について良好な評価を得る場合が多い。

#### 5. 教育の改善

上記4. 教育の成果を踏まえて改善点を示す。

1. 学生が最も理解しやすい教材量と進行速度を心がける。
2. 学生の不足している知識（人体の構造・機能など）が判明した場合、どこをどのように復習すべきかをもっと具体的に提示する。基礎医学と看護学をどのように知識をつなげていくのかを具体化する。
3. アクティブラーニングの割合をあと2割増やしていく。
4. 学生の復習状況が把握できるようにする。

## 6. 教育の目標

第一に、学生が看護への興味関心を持ちながら学修できるような授業を展開したい。学ぶ事のよろこび、人体への関心、人間がもつ可能性の凄さを学生が感じ取る瞬間を増やしていきたい。また、学生の知識体系を断片から系統的なものへと発展できることを重視していく。学生が能動的に学ぶ姿勢を育み、授業効果をよりよくしていくためにも今よりもさらにアクティブラーニングを活性化していく。

### 【資料】

1. シラバス
2. 授業内提出物（講義、演習）
3. ルーブリック（実習）
4. レポート提出物（実習）